

歩道

ぎらぎら 細い線が いつばい 僕の からだに ふりかかる
がまん出来ずに いらいらして 汗が からだに にじむ 今
僕の 目が ぴかりと 光に 輝いて めて
僕の からだは 硬くなつて 手は ぶらんと なつたまま
歩道に一人だけ 立止つて みる
ふと ふりむけば ウインドの中には
赤い花と 白い花と 緑の葉っぱが 入りまじつてゐる
春に近い 水をふくんだ 草花たちよ
貴様たちも
僕の 秘密を のぞきたいのだな
僕は いやだ 実際 これでは たまらなくなつてしまふ